

明けましておめでとうございます。

皆さん、この年末年始、御家族、御親戚、御友人と過ごされ、よき新年を迎えられたことと思います。今年1年が、島根県にとりまして実り多い一年になりますように、この1年の御奮闘を改めて皆さんにお願いしたいと思います。

御承知のとおり、新型コロナウイルスは年末から年始にかけてオミクロン株と思われる感染が急速に拡大しています。年末年始、大晦日関係なく出雲保健所を中心として健康福祉部、各保健所において積極的疫学調査を昼夜問わず実施していただき、今日を迎えているところです。この直近の状況をみますと、1月7日の時点で療養が必要な方が65名でしたが、昨日、1月10日の時点で、その65名という数字がこの3日をかけて207名と約3倍の増加をしています。それに伴いまして積極的疫学調査が必要となる範囲、そして入院の対応、そして自宅療養や宿泊療養に移っていただくための様々なマンパワーが必要になっています。既に、総務部において調整をしてもらっていますが、保健所等の現場支援のために本庁からも職員をさらに投入してまいります。投入していく人数についても今日時点で調整している数字をさらに上積みをしていくこととしております。ぜひ、各部局においては様々な業務との両立が難しい課題となっていますけれども、昨年夏の豪雨、そして台風の災害復旧を除きまして、各部署での御協力を一層お願いする所存であります。

これまでも申し上げてきましたとおり、この新型コロナ対応と人口減少対策、島根創生計画の取組を両立させていくということが一貫した課題であります。けれども、この1月は感染急拡大を受けまして、ともかく新型コロナの感染急拡大の対応を最優先としていくという形で対応していきます。

これから知事査定が始まりまして予算編成の終盤を迎えますが、はっきり申し上げて当初予算編成よりも新型コロナ対応を優先するという姿勢で、この1月は仕事をしてまいります。そういった形で、今、現場で求められているコロナ対応での諸課題の解決を最優先で取り組んでまいりますので、この視点で、総務部、健康福祉部からの協力要請に各部局対応していただくようお願いいたします。当初予算は大事ですけれども、6月の補正の機会があります。コロナ対応というのは、今この時、この一時にきちんと対応しなければ、この初期消火をきちんとやるのが後々大きな影響をもたらします。同じマンパワーを投入するにしても早めに投入して早めに物事を収めていくことを徹底したいと思いますのでよろしく願いいたします。新型コロナの対応をきちんと県庁をあげて取り組んでいくことが、経済、社会経済活動の両立につながってまいります。この時期を逃さずにコロナ対応に全力で取り組ん

でございますのでよろしくお願いいたします。災害の対応との両立をうまく図りながら、本日御出席いただいている県庁各部署の幹部の皆さんの適切な判断をいただくようお願い申し上げます。迷うところがあればすぐに副知事、それから私に相談していただいて、判断を示していきたいと思っております。

オミクロン株につきましては、これまで感染者の方々の状況をみますと、軽症、あるいは無症状の方の比率が高く、デルタ株と違って入院後に急変されるという事例も少ないところが特徴であります。今回の感染拡大を早く一定の目途をつけて、いろんな活動を安心して行っていただく環境を作っていくことが、今、県政に求められている課題です。それに向けて県として最大限取り組んでいきたいと思っております。

これまでも、全国的にみれば県民の皆様の御協力をいただいて感染を比較的低水準で抑えてきた本県です。県民の皆様の御協力、そして市町村、医療機関の御協力をいただきながら、島根県が総力をあげて取り組んでいく考えです。島根県は人口も多くはありません。県庁組織も医療機関も大規模なわけではありませんけれども、小さい県、小さい組織なりに、小さいが故に機動的に対応して、早く対応ができるという強みを活かして、今の状況について県民の皆様に安心していただける状況を早く作っていききたいと思います。先ほど申し上げましたとおり、コロナと島根創生を両立していく中でも、今のこの足元の局面では、感染拡大防止、この現場の保健所、医療の対応のサポートに全力をあげていくということで臨んでいたと思います。そうした中で、島根創生の取組との両立について、状況をみながらシフトしていくよう、適時適切に判断をしていきたいと思っておりますので、今年1年の皆さんの御協力を是非お願いしたいと思っております。

そして、この年末年始にかけましても、出雲保健所を中心に、現場でまさに年末年始関係なく通常業務と変わらない対応をしていただいている職員の皆さんに心から感謝を申し上げます。そうした方々の仕事、それから生活との両立を図るという観点も含めて本庁からのサポートを十分に行ってまいります。

今年1年、この年初の難局を乗り越えて、コロナと社会経済活動の両立、人口減少対策の推進を適切に、バランスをとりながら行っていききたいと思います。是非、引き続いて幹部職員の皆さん、職員の皆さんの御奮闘を心からお願い申し上げます。年頭に当たりますの訓示とさせていただきます。

それでは、大変厳しい年明けではございますが、是非ともお力添えをお願い申し上げます。年頭に当たりますの訓示とさせていただきます。

本年も1年よろしくお願いいたします。